

プラセンタ治療(保険適応)のご案内 ^{1/4}

・更年期障害かもと思ったら・・・



卵巣の機能が徐々に低下し、月経が停止することを「閉経」と言います。(日本人女性の平均は50歳前後)

閉経前5年～閉経後5年間の10年間を「更年期」と呼び、更年期には様々な症状(更年期症状)が現れます。

このうち、特に症状が重く日常生活に支障をきたすような状態を「更年期障害」と呼びます

・更年期障害の症状とは？



血管運動神経系の
の症状

ホットフラッシュ
(のぼせ・ほてり)、
動悸、息切れ、発汗など



精神神経系の
の症状

頭痛、めまい、イライラ、
うつ、疲労感、倦怠感、
不眠など



筋・骨格器系の
の症状

肩こり、腰痛、
背中の痛み、関節痛、
しびれなど



消化器系の
の症状

食欲不振、吐き気、
胃もたれなど



皮膚・分泌系の
の症状

皮膚や粘膜の乾燥や
かゆみ、のどの渇きなど



泌尿器
生殖器系の
の症状

月経異常、尿失禁、
性交痛など



・更年期障害の治療法

✓ 栄養バランスのいい食事、適度な運動

✓ HRT (ホルモン補充療法)

✓ 漢方薬

✓ 抗精神薬

✓ 人胎盤エキス (プラセンタ) 注射剤



プラセンタ治療(保険適応)のご案内 2/4

・更年期チェックシート SMI：簡略更年期指数

症状	強	中	弱	無	点数
顔がほてる	10	6	3	0	
汗をかきやすい	10	6	3	0	
腰や手足が冷えやすい	14	9	5	0	
息切れ、動悸がする	12	8	4	0	
寝つきが悪い、または眠りが浅い	14	9	5	0	
怒りやすく、すぐイライラする	12	8	4	0	
くよくよしたり、憂うつになることがある	7	5	3	0	
頭痛、めまい、吐き気がよくある	7	5	3	0	
疲れやすい	7	4	2	0	
肩こり、腰痛、手足の痛みがある	7	5	3	0	

更年期指数の自己採点の評価法

- **0～25点**
上手に更年期を過ごしています。これまでの生活態度を続けていいでしょう。
- **26～50点**
食事、運動などに注意をはらい、生活様式などにも無理をしないようにしましょう。
- **51～65点**
医師の診断を受け、生活指導、カウンセリング、薬物療法を受けた方がいいでしょう。
- **66～80点**
長期間(半年以上)の計画的な治療が必要でしょう。
- **81～100点**
各科の精密検査を受け、更年期障害のみである場合は、専門医での長期の計画的な対応が必要でしょう。



・当院ではプラセンタ治療（保険診療）が可能です。

期待される効果



精神症状の改善
 疲労感
 倦怠感
 不眠 等



身体症状の改善
 肩こり
 腰痛
 冷え性 等

・プラセンタとは？

プラセンタ (Placenta) は哺乳類が胎児を育てる臓器「胎盤」のことで、**16種**のアミノ酸*、各種ペプチド、ビタミン、ミネラルなどの栄養素が含まれています。

プラセンタを投与することで成長因子による細胞活性化を促し、更年期障害にみられる疲労感、倦怠感、不眠などの精神症状や肩こり、腰痛、冷え性などの身体症状を改善します。

※主な成分：リジン、アラニン、アスパラギン酸、ロイシン、グルタミン酸、グリシン、バリン、セリン、チロシン、フェニルアラニン、スレオニン、アルギニン、プロリン、イソロイシン、メチオニン、ヒスチジン



・保険診療での対象・プラセンタ投与方法

- ✓ 45～59歳の更年期障害と診断された女性
- ✓ メルスモン1回1本 (2mL) を投与 (皮下注射)
- ✓ 月に15回まで

推奨されるスケジュール

最初の2週間は週2～4回投与

以降は週に1～3回投与

※混雑緩和の為、午後外来で対応いたします

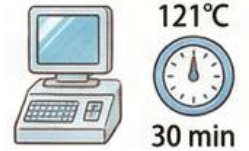
初回は、貧血・甲状腺機能異常などの診断目的に採血など適宜検査を行います。

初回・月初にはSMIに基づく医師の診察を行います。



プラセンタ治療(保険適応)のご案内 4/4

・メルスモン注射剤についてのご説明



メルスモン注射剤は、1956年（昭和31年）に承認された医療用医薬品です。国内の、安全なヒト胎盤を原料とした注射薬で、多種のアミノ酸を含有しています。

◎ 次のような病気や症状の改善に使われます。

更年期障害による諸症状（のぼせ・冷え・不眠・イライラ感・頭痛・疲労・肩こり・腰痛など）の改善。又、産後、乳汁分泌が少ない方の治療に使われます。

◎ 次のような副作用があります。

注射部位の疼痛、発赤等や、悪寒、発熱、発疹等が起こることがあります。その場合は、医師にお申し出下さい。

◎ ウイルスや細菌などに対する安全性

胎盤1つずつについてウイルス検査を実施し、HBV、HCV、HIV陰性であることが確認された安全な胎盤を原料としています。さらに、製造の最終段階に121°C・30分間の高圧蒸気滅菌を実施しており、ウイルス・細菌の感染防止対策をとっています。

◎ 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 (vCJD)* に対する安全性

1980年代～2004年頃まで英国を中心に狂牛病が流行し、その肉の摂取が関連すると思われる変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)の発症が報告されました。メルスモン注射剤は、この狂牛病が流行した時期に、それらの地域に滞在経験がある方の胎盤は原料として使用しておりません。*クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)とは、異常プリオンたん白が脳内に蓄積し、進行性の認知症や運動障害などの脳症状をおこす極めて稀な病気です。狂牛病が原因と考えられているものを変異型と称しています。

◎ 献血制限及び臓器提供制限について

世界では輸血や移植による感染が疑われる報告もありますが、これまで、メルスモン注射剤によると思われるvCJDの感染報告はありません。しかしながら、理論的なvCJD等の伝播の危険性を完全には否定できません。このため、メルスモン注射剤を含むヒト胎盤由来医薬品の使用者は、献血は出来ません。臓器提供は原則として控えることが求められています。但し、臓器提供の場合、移植希望者が移植医から適切な説明を受けた上で、提供を受ける意思を明らかにしている場合の提供は可能です。

